

### 第3回 太郎の妻と太郎・・・叱る妻（狂言 <千切木>）

講師 : 北見 真智子先生（大阪音楽大学講師・音楽学）

日時 : 6月10日（水）10:00～11:50

今月は「狂言」について、「能」と比較などの講義のあと、女狂言の一つ「千切木」のビデオ鑑賞と解説がありました。

「千切木」では、弱い夫を鼓舞し愛情を注ぐ、男勝りの妻を描いており、受講生は我が家を引き比べ、興味深く鑑賞しました。

（講義の概要）一部加筆

#### ● 狂言は、能と深い関係を持ちつつ、対照的

能	狂言
幽玄美を第一とする歌舞劇 室町時代以前を対象とする時代劇 有名な人物が主人公（シテ）	題材は日常的な出来事、笑いや風刺を表現 現代劇あるいは社会劇 有名人はまず登場しない →当時に生きた人々の感覚を反映

#### ● 独特なセリフまわし

明瞭で大きな声。聞き取りやすい。「～でござる」調。登場する時の名ノリ。セリフを言いながら空間移動する（道行）。

#### ● 狂言を上演する人々

狂言を演じる人々を狂言方という。  
能と能の間の演技を間狂言（アイ）、独立して演じられるものを（本）狂言という。  
流派として大蔵流と和泉流があり、それぞれに複数の〇〇家があり家単位で活動。  
通常、共同して演技はしない。

#### ● 狂言の種類

現行曲数は 大蔵流は200、和泉流は250。  
分類名として、福神狂言、百姓狂言、果報者狂言、大名狂言、**女狂言**、鬼狂言、山伏狂言などがある。それらの役柄として、神仏・鬼、大名、太郎冠者（従者）、出家・山伏、**わわしい女**、アウトサイダーや職人、蚊などの動物の役がある。

#### 女狂言 <千切木>

##### 登場人物

シテ（主役）：**太郎**

アド（脇役）：当屋（亭主）、太郎冠者、**太郎の妻（わわしい女）**

立衆（端役）：連歌の会（講）の参加者

##### あらすじ

仲間外れにされて、連歌の会に呼ばれなかった太郎は、押しかけて行って、悪態をつく。堪りかねた皆々の打擲を受けて、表に放り出される。駆け付けた太郎の妻は仕返しに行けと言う。臆病で弱虫の太郎は、おそろおそろ家々に押しかけるが、どこの家でも居留守を使う。にわかに元気づいた太郎は、棒を振りまわし、声を振り上げて強がりをする。それを見た太郎の妻は「健気や」「のう、愛おしの人よ、こちらにござれ」と呼び寄せて、二人は仲良く帰っていく。

（三班広報）